

SCOUTING 茨城

1996年・3月☆茨城県連盟広報委員会発行

富士スカウトが新しく誕生

茨城県連盟で4人目・5人目の富士スカウトが誕生しました。



牛久第4団 鈴木 忍君
茨城県第4号 日本連盟授与No2131号

富士スカウト章を取得して

牛久第4団 鈴木 忍



牛久第4団 石田 紀一郎君
茨城県第5号 日本連盟授与No2132号

平成7年12月17日に県連盟での面接会を開催し、8年1月21日各地区事務長・組織・拡張委員会の席上で、海老原団委員長・室井高城隊長同席のうえ、刈部県コミッショナーから交付し、全員がお赤飯でお祝いしました。

特に、鈴木 忍君は、平成5年に第2号として富士スカウトをとられた鈴木貴宏君の弟さんで、兄弟で「富士スカウト」を受賞されたことは、日本連盟でもめずらしいそうです。

皇太子殿下にご拝謁

平成8年3月26日、第14回富士スカウト顕彰のため、鈴木・石田両君は日本連盟に集合し、翌日東宮御所に参殿し、全国の富士スカウトが皇太子殿下からお言葉をいただき、次に内閣総理大臣を表敬訪問し、橋本総理からお祝いの言葉をいただきました。

橋本総理も少年時代ボーイスカウトだったので感激深かったと思います。

(鈴木 忍君から富士スカウトを取得するまでの記事を戴きましたので、参考にして下さい)

私が富士スカウト章を取得しようと決意したのは、ちょうどシニアースカウトに上進した時のことです。富士スカウトになるためには、シニアースカウト章や隼章を取得しなければならないのはもちろんのですが、やはり最も大変だったのは富士スカウト章への進級課目でした。これはとても時間のかかることで、自分でさまざまな企画を提案し、計画、実行しなければならず、報告書を提出するまでの一連の過程をこなすのは大変なことでした。そこで、富士スカウト章を取得することで、特に苦労した点をいくつかあげてみたいと思います。

1. 宗教章

宗教章は、特定の宗教を信仰していない場合には、最も難しい進級課目かもしれません。私の場合は、室井隊長に石岡協会の牧師先生である相澤先生を紹介していただき、キリスト教章の取得を目指しました。毎週日曜日に教会へ通い、礼拝に参加してキリスト教について勉強しました。キリスト教について学び進めていくうちに、神への信仰と人々に奉仕するという点で、スカウト活動のキリスト教的な基盤を理解することができたと思います。

2. 50kmの行程を歩く

50kmハイクは、東京浅草の浅草寺から牛久駅まで一晩かけて真冬の寒い中を歩きました。最後の数キロは足が本当に棒のように感じられ、自分の体力不足を痛感しました。また、シニア一隊のメンバーがお互いに協力して50kmを完歩したこと、隊としての団結力を強くすることができたと思います。

3. 技能章

富士スカウトになるためには、いくつかの技能章を取得しなければなりませんが、私は隊の活動で技能章を取得できる機会があれば、積極的に活用して力又一章や茶道章などの技能章を取得しました。また、救急章に関しては県連の救急法講習会に参加して、救急法を学びました。そして、自分の趣味や特技をいかして珠算章や水泳章などを取得しました。

4. 個人プロジェクト

私は、個人プロジェクトの課題には「奥の細道」について調べることにしました。動機としては、学校での古文や日本史の授業で松尾芭蕉の「奥の細道」について学び、芭蕉とその門人曾良の旅路を自らの目で確かめてみたいと思ったことから、このテーマに決定しました。やはり、この個人プロジェクトは自分の最も関心や興味のあることに取り組むのが良いと思います。実際に、単独キャンプを実行して、今まで班単位などでしか経験したことのなかったキャンプを、すべて一人で成し遂げてその大変さを実感しました。キャンプ

地の選択などの段取りから、設営や撤営、食事の用意、そして荷物の大きさと重さなど、「自分の力又一自分でこぐ」ということの難しさがわかりました。また、真暗なキャンプ場で一人寝ることのさびしさも並のものではありませんでした。しかし、今ふり返ってみると、とても良い経験をさせてもらったと思います。それから、報告書を仕上げるのには予想以上に時間がかかるので、なるべく早い時期から個人プロジェクトに取り組むのが良いと思います。

私が富士スカウト章取得を目指したのは、牛久4団に富士スカウトである先輩がいて、いろいろと体験談を聞いたこと、そして、共に富士スカウトを目指す友人がいたことです。また、私がこうして富士スカウトとなることができたのは、何よりも室井隊長の御指導のおかげ、そしてローバー隊の先輩やシニア一隊の仲間の協力があったからだと思います。自分を支えてくれた周囲の人々に感謝するとともに、今後は富士スカウトの名に恥じないように頑張りたいと思います。

第18回世界ジャンボリーがオランダで開催される

第18回世界ジャンボリーがオランダで平成7年2月6日から8月18日開催され、茨城県連盟からは鷹崎隊長以下、西野副長とスカウト14名が参加しました。

代表して鷹崎隊長と西野副長に報告をお願いいたしました。

第18回世界ジャンボリー に参加して

水戸第6団 鷹崎繁幸

1995年3月20日リーダー会議、20代ローバースカウト、30代副長、40代隊長、50代県コミッショナー、理想的なメンバーでこの世界ジャンボリーは素晴らしい体験が出来ると確信した瞬間から始まりました。最初に悩んだのが集合場所・そして班編成、結果選んだ所は日本連盟本部。今後の成果に大いに役立った場所となりました。班は高校3年生が多く各県で2・3名ずつ割り振り学年を考慮し作成。第1回目の事前訓練、我が隊は茨城・埼玉・山梨の3県合同隊。日帰りの初顔合わせとなりました。各県ではこの時期に社行会が

行なっていたと後になって知りました。第2回目は2泊3日見ず知らずのスカウトが意志の疎通を測るにはと思い前回の世界ジャンボリーを手本に実施しました。第3回目は1泊で土浦青年の家で行いA3隊単独の集会はこれが最後。個人個人の性格がはっきり現われだし多少の不安も出て来ましたが俄作りの班にしてはリーダー皆一安心した集会でした。3度の事前訓練で最も重要視したのが海外での危険とマナーでした。君達に於いての日本の常識は海外では100%通じないという事。世界ジャンボリーに参加するからには普段から各隊に於いて通常の訓練はしている筈であるから敢えてせず国旗儀礼、集合隊形の早さ等初步の復習のみを繰り返し行ないました。

本番直前の7月24日から26日、オリンピックセンターにA分団6隊240名が集合、我がA3隊会員驚き彼らとは一緒に行動したくないと思いました。この思いはジャンボリーが終るまで皆の心の中で感じていたのではないかでしょうか。しかし我が隊も良い事ばかりあった訳ではありませんでした。事前訓練から思っていた事が現実になったからです。事前訓練の参加が少なかつた者程問題を起こしやすい。リーダーの生の声が届かず色々な形となって表われ悩まされました。その最悪

のケースが英国で起こってしまいました。ヒースロー空港到着時よりローバー・ベンチャースカウトが各隊数名ずつガイドとして滞在中奉仕して下され楽しい時を過ごしていたのですが地下鉄を利用し各班別に集合中一人のスカウトが禁じられていた両替所で荷物を路上に置き一瞬目を離した隙にパスポートを入れてあつたバックを置き引きされました。パスポートは生命の次に大切な物肌身離さず管理する事と、事前訓練時よりこの時期英國にはヨーロッパ各国からジブシーが集まり旅行者を狙っていると何度も口が酸っぱくなる程言い聞かせていたのですが現実になってしまいました。参加の悪さは県コミッショナーには伝え本人に我々の考えを伝えてくれる様お願いしてありましたが、やはり事前訓練に参加する事が事故等を未然に防ぐには最良と反省させられました。関係者の方々特に日連の野田氏、旅行会社の方々、日本大使館には余計なお手間を掛けてしまいました。本人は一日遅れでオランダへ到着しましたが本人の心労は大変だったと思いました。しかし、成り行きを見守っていたスカウト達の気の引き締めには役立ち以来益々 A 3 隊の結束が固まり素晴らしい隊になっていきました。ロンドンで2泊しその後3都市に別れホームステイ英國の実生活を実感してきました。私自身のホームステイ先はワーウックという町。2日目の朝制服でと言われラグビー市に滞在していたスカウト達と再会。ラグビースクール（ラグビー発祥の地（大学））を見学後ある建物へ。中から初老の夫妻が、その廻りをカメラのフラッシュ。何と市長夫妻だったのです。中へ招かれ議場で歓迎会。暖かいもてなしを受けました。ラグビー市誕生以来初めての日本人の記帳に皆緊張の時間を感動しながら体験しました。翌日には地元新聞で我々の事が報道されました。

ロンドンへ戻りギルウェルパークの見学、英國隊の送行会に参加後、真夜中ドーバー海峡を渡りバスで一路ベルギー経由でオランダへと強行軍。会場到着後炎天下の中最早ばく材運び、そしてサイト作りととんだジャンボリーの始まりであった。

9泊10日の世界ジャンボリーを最低の会話力で交流・アクティビティー・スワップと彼らなりに体験し素晴らしい思い出を作りました。リーダーにも参加出来るプログラムが沢山あり私自身 G D V (地球開発村) という10名程度の個別のグループを作り別のグループとテーマを与えられての討論会方式のゲームに参加。例えば「アメリカは大きいか?」「中国人はおとなしいか?」等互いに司会者を混えて A グループは大きい

(おとなしい) …B グループは小さい (うるさい) …と別れ相手を自分の意見に共鳴させ A から B へ (その反対) と引き抜きあうゲーム、スカウトにも同様なプログラムがあり今後派遣する時は会話も重要視しリーダー共々選抜した方がもっと中身の濃い体験が出来るのでは、毎朝の隊長会議に於ても同様、一日のプログラムについて伝達され通じなければスカウトの活動に大きな影響を及ぼします。しかしオランダのスタッフのお陰で何不自由なく日程をこなす事が出来ました。ローバー年代を中心に5000名からなるスタッフ、食堂関係では睡眠時間が毎日3・4時間だったそうです。大会長が私と同年代と聞き日本も将来若い世代の活躍する時が来る事を期待しています。子供の頃より夢見ていたヨーロッパにおけるジャンボリー。歴史の厚みを感じた10日間でした。

しかし、最終日の前夜親しくなったリーダーと私達で隣りの英國隊へ一つの意見を判断してもらいに行き我々も思っていた事を是非最後の隊長会議に文書で提出すべきだと言われ地区野営長へ渡しました。その場では何の返答もありませんでしたが閉会式も終わりに差し掛かり大会長の言葉を漠然と聞いていた我々の耳を疑ぐる言葉。今朝我々が出した文書の答えと思う様なスピーチ。大会中主にヨーロッパの男女のスカウトの乱れ。我々日本人にはまずありえない事が現実に毎日目の前で行なわれ言わずにはいられず大会長宛に質問状を出しました。オランダでは大勢の意見は当然聞き入れるが少数意見も尊重する国と聞きそれが現実になった事に驚き益々ジャンボリーに参加した事に満足しました。

翌朝日本隊の使用したテント・ベットをアジア・アフリカ隊へ贈呈しスタッフに見送られ会場を後に一路アムステルダムへ。2泊後ドイツ・ルクセンブルグ・パリへと歴史ある場所を見学しヒースローへ戻り真夏の日本へと、24日間と長い世界ジャンボリーでしたが大した事故もなく皆元気に沢山の思い出と土産を詰め込んで帰国しました。今思う事は素晴らしい A 3 隊のスカウトと出会い今もって暖かい気持ちを持続けてくれている彼らに感謝しています。リーダーもそれぞれ自分の仕事場へもどりましたがなかなか疲れが取れず復帰するのが大変だったといっていました。最近も連絡し合いOB会をしようという話しも出ており、スカウト同士も交流している様です。又いつか成長した彼らと同じ時間を共有したいと計画しています。

最後に関係者の皆様にお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

第18回 世界ジャンボリー雑感

水戸第二団副長 西野光範

i お礼

この度の26日間のWJ参加にあたり家族や職場の方に理解を得られたことによても感謝している。また隊や団の幾人かの方には、無理を押して参加したため迷惑をかけた。厳しい状況の中承諾して頂いたことをありがとうございました。今後の活動でお返ししたい。

ii 概要

18回を数える世界ジャンボリーは、平成7年8月1日から11日までの間オランダのフレボーランド州ドロントンで開催された。168の国と地域から約2万人のスカウト達が「未来は今」というテーマのもと集まった。

日本派遣団は、スカウト1075名、指導者118名、本部・国際スタッフ43名、計1236名だった。全30の隊を地域ごとA～Eまでの5分団に分けた。各隊は地域でまとまる隊もあれば、私の所属したA分団第3隊のようにいくつかの地域が集まって編成されている隊もあった。茨城からは、スカウト14名、指導者2名が参加し、埼玉、山梨のスカウトと共に今後再び経験することがないであろう26日間を過ごした。

iii 準備

昨年3月に最初の隊長会議が三鷹のスカウト会館で開催された。それまで全く状況が把握できなかった大会の概要がここで明らかになった。

私がWJに際し、不安に感じていたことは以下の三点であった。

- ①スカウトの掌握
- ②指導者の連帯
- ③携行隊備品

このうち①②については、3月末から6月にかけての通算3泊5日の準備訓練で不安は解消された。だが③については、情報も乏しく、日連国際部に問い合わせても、「公表していることしかわかりません」という答えだった。配給される備品を資料から読み、考え、隊として何を準備していくのか。それが指導者の腕の見せ所だった。

ここで鷹崎隊長（水戸第六団）のWJ過去2回参加の経験がものをいった。詳述は割愛させていただくが、備品の準備は、醤油が少々不足したことを除けば完璧だった。

iv ロンドン観光

時差8時間、12時間のフライトを経て、ロンドン・ヒースロー空港に着いた。ロビーはA分団お揃いのオレンジの帽子でうめつくされていた。手続きを終え、到着口を出るとイギリス連盟のスカウトから歓迎を受けた。1隊当り4名のベンチャースカウトがつき、指示されるままバスに乗った。

気温28度。湿気はなく心地良かった。

その日の夜にミュージカル「スター・ライト・エクスプレス」を観た。長旅で疲れているせいか、ほとんどのスカウトが眠っていた。これにはイギリススカウトも不機嫌そうだった。

翌日はロンドン市内観光があった。ここでもベンチャースカウトが案内してくれた。

夜は、ギルウェルパークで過ごした。宿泊していたピーバー、カブ、ボーイたちのキャンプファイヤーでのあの楽しそうな光景は忘れることができない。

v HOHO (Home Hospitality)

ロンドンからバスで約3時間のところに私達のホームステイ先であるコベントリーがあった。ここは今世紀初めから自動車産業が栄えた土地だった。3つの尖塔が有名な町もある。簡単なセレモニーの後、40名は各家庭へと別れていった。

私はスカウト2名と共に地区のコミッショナーの家にお世話になり、楽しい日々を過ごした。市内の大型堂や地区キャンプ場、また14世紀の古城、ワーウィック城を見学できたことはとても思い出深い。

最後の日は、たった3日間であったのに、とても感慨深かった。

vi WJ

会場へ向かう途中、A～C分団は一旦ロンドン郊外のクリスタルパレスに集まり、イギリス連盟の壮行会に便乗した。大道芸を見ながらの食事と、夜12時までのディスコパーティーを経て、バスでWJ会場へと出発した。

ドーバー海峡をフェリーで渡り、カレー、ペルギー経由でオランダの会場に入った。

キャンプサイトは星座によって区分されていた。私達のサイトは、琴座（ライラ）で、オランダ隊とイギリス隊が隣り合わせていた。あるスカウトが、「本当にオランダに来たんですね」と実感が伴わないのか、そう言った。確かに、同じ空と太陽の下に行うキャンプである。北海道で行っているような感覚もあった。オランダで過ごしていることを実感するためには、他のスカウトとの交流しかなかった。

開会式には、参加スカウトが全員集まつた。各プログラムの紹介があり、ディズニーランドのパレードに

似ていた。

スカウト達は大会期間中、多様なプログラムに参加した。ヨットに乗るセイリング、泥まみれで進むサバイバル・トラック、一晩中森や湖のそばを歩くナイトハイク、中には乗馬やパラグライダーをしたスカウトもいた。

夜は7時を過ぎても明るかった。この時間帯はバレーとサッカーの対抗試合が組まれ、有効に使えた。

スカウト達はいつのまにか他国スカウトとお互いのフッペンやリングを交換していた。たくさんの準備をしてきた者が、多くの思い出を持ち帰ったようだ。

vii 欧州旅行

大会終了後の1週間は、アムステルダム、フランクフルト、ルクセンブルグ、パリをバスで観光した。世界的に有名な名所を見学できた。ただ4カ国の通貨を使うことにはとても苦労した。

viii 感想

8月18日成田空港に到着。大勢の方の出迎えを頂いた。保護者の方のご理解とご支援で無事日本に着き、大会を乗り切ることができた。このことはスカウトのみならず指導者として参加した私個人にとっても大きな自信となった。

帰国直後は、蒸し暑い日本の気候に嫌気がした。そう、海外旅行をすると『日本らしさ』について再認識できるものだ。

例えば花火。WJ閉会式に打ち上げられた花火はバッ



クに交響曲が流れ、確かに盛大で良かった。が、ひっきりなしに上がったので、合間にに入る風流な花火の紹介に慣れている日本人にはどこか興ざめするものだった。

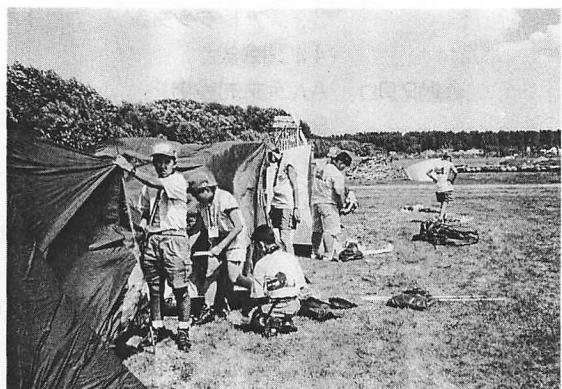
またこれは日本隊全体に言えることだが、国際語である英語会話力のなさが目立った。こんなことがあった。WJを見学に来たオランダ隊指導者数名が、私達のキャンプサイトに突然入ってきて、昼食を広げ始めた。するとそこにいたスカウトは静かに立ち去ってしまった。それを見たオランダ指導者は、「私達を怖がっているようだ」ともらした。

「楽しく話したい」という意識はスカウト達にはあるらしいのだが、話されている事柄が理解できない。だから逃げていくという。これは日本らしさというより学校での英語教育の限界というべきだろう。

スカウト達には、学校に頼らない、自らの意志による英会話力の向上を望んでいる。

また恥かしさが解けたときに真の交流が始まるなどをスカウトは感じる取ることができたようだ。学校では教えてもらえないだけにこの意味は大きい。

私個人としては、イギリスのベンチャースカウトやHOHOでの家族や大勢の関係者の温かさを通して、〈ネッカチーフをしている人は、世界中皆同じスカウトだ〉ということを実感できた。とても有意義な、また何にも代えがたい24日間であった。



テーマは

「風と仲よし元気村」

サブテーマ ぼくたちはムシが好きだ。

サカナも好きだ。ハナもトリも好きだ。

ヒトが好きだ。

元気いっぱい、自然とあそび、自然に学ぼう。

素晴らしいプログラムに挑戦し、ピーバースカウト・カブスカウト・ボーイスカウトと指導者及び保護者を含めて2,194名が秋の1日を充分楽しみました。

第9回茨城県カブラリー 開催される

平成7年11月19日（日曜日）那珂町の「笠松運動公園」で第9回茨城県カブラリーが秋の好天に恵まれて開催されました。

秋晴れのカブラリーに想う



第9回茨城県カブラリー

行事部長 小林 成敏

その日、平成7年11月19日(日)、朝、目が醒めて時計を見る。——4時半だ——すぐ身支度して屋外へ出る。少し冷たい風だが満天の星は小さく、小さく空に輝いて今日の晴天を約束してくれました。

「ヨカッタ!!」と胸がギューッと熱くなつたことが今でも忘れずに心に残っています。

よかったです。これでカブラリーはこれまで準備した通り全部消化できる。早速、会場内を一巡して昨日の作業が夜になって中断され、資材はあちこちの各ゾーンにその日の状態で残っており、全く正常に一夜が明けた事がチェックされました。

「大丈夫だ!! 50%成功だ!!」とその時、私は確信しました。

快晴の下、行事部で予定したプログラムは次のようなものでした。

- | | |
|------|---|
| 全体行事 | 1. 開会式
2. ワイドゲーム
3. アトラクション
4. 閉会式 |
| 選択プロ | A. 元気村役場
B. わんぱく広場
C. 仲よし広場
D. かぜの広場 |
| 特別プロ | 1. 茨城スカウトクラブ発会式
2. 参加章図案表彰式 |

以上のプログラムは、順次滞りなく実施・展開され何も心配することはありませんでした。

顧みるに

カブラリーの今迄の経過からして、凡そ開催地区が、主にその担当になっているようあります。第9回では順序として、5~6地区が予定されておりましたが、カブラリーの性格からして、県連盟の全体の重要な行事もあり、夫々の部門別にそれぞれの役務分担をお願いする以上、平成6年10月22日の各種委員長会議では、第9回カブラリー開催について、特に地区には限定しないという結論に至りました。

そこで共通理解として、

1. 県内各団が参加しやすい場所
2. バス等駐車場が充分にある場所
3. 雨天の場合も使用出来る。
4. プログラム全般が十分に展開できる。

の4点に焦点が絞られたのであります。

丁度1年前の平成6年11月19日、第2回野営行事委員会に於て、当初案としては平成7年11月12日(日)に設定し、那珂町の笠松運動公園が場所としては最適であるとして第9回茨城県カブラリーを開催することで、意見の一一致を見ました。それで早速、現地の下見を行ない、会場の規模、環境の適否、交通の利便（特に大型バス）及び駐車場の良否等、時間をかけて念入りにチェックし、12月3日の各種委員長会議でその旨報告12月18日の定例理事会の席上、これらの用紙を整理して諮詢致しましたところ満場一致で可決され正式に第9回茨城県カブラリー開催についての企画委員会の発足と企画委員の承認がなされました。

そして年が改まって平成7年1月21日、第1回の企画委員会をはじめとし、名称も準備委員会、実行委員会と順次移行していく訳であります。

苦労したこと——会場の確保と天候——

最大の難関が会場内施設の割り当てにありました。那珂町にある笠松運動公園には主な施設として陸上競技場(A)、サブ陸上競技場(B)、庭球場(C)、体育館(D)、球技場(E)、野球場(F)、児童スポーツ広場(G)、そして会議室(H)等がありますがカブラリーとして使用出来るのは(A)、(B)の2施設ですし、雨天の事も考えて5500人収容出来る体育館(D)も確保しなければなりません。最初申し込めば、まだ大分先のことでもあるので直ぐ確保出来ると考えていた私は愚かでした。平成6年11月27日に2度目の現地視察をした際、管理事務所に申し込みをしたところ「申込者は来年3月2日の年間行事調整会議に出席して下さい」との返事、私は決められた時間の午前9時に水戸市堀町にある武道館に行き大会議室に入り開始時間を持ちました。室内には県内主要の会場施設名が11ヶ所程貼り出され、夫々のコーナーに申込者が集まつておきましたが、ピックリしたのは私が申し込みをする(B)と(D)のコーナーが別々に設置されていた事、申し込みは4月1日より順次毎月に日を追つて5月、6月、7月というふうに平成8年3月31日迄の1年間の日程の調整で、若し同月同日同場所が重複申込の際は話し合いで決めて欲しいとのことでした。更に驚いたことには当初予定していた11月12日という日が全て使用できないとの事を会議の始まる直前にアナウンスされたことでした。従つてカブラリー開催は必然的に11月19日の1日しか

予定出来ない事と更に準備の為、前日18日(土)も借用しなければならなかったこと——しかも(B)と(D)の2施設を夫々、別々のコーナーで同時に確保せねばならないという非常に困難な局面に立たされたことありました。即ち月を追う毎に(B)と(D)の2コーナーを駆け足で行ったり来たりした訳で大変苦労しました。申し込みに参加した方々は大部分が中学・高校関係の先生方で占められ各コーナー毎に夫々声や手で合図し、二股をかけており私はその時大変な危機感を持ちました。平成7年4月1日より平成8年3月31日までの1年間の日程について各コーナーの申し込みが大体終了したのは開始してから約1時間半の後でした。私が申し込んだ11月18日(土)(B)と(D)、11月19日(日)(D)は対抗馬が無く確保出来たのですがメインであるサブ陸上競技場(B)が某中学校と重なり、それからが本当に大変でした。先方の中学校の先生3名は私を取り囲み何とか私に取り下げるよう詰め寄って口々に言い立ててきたのですが、私も必死で絶対確保する意気で、何度も何度も3人に強くボイスカウトのカブラリーは4年に1回しか出来ない行事であること、更には前回が荒天で流れてしまったこと、そして今回は8年ごしのボイスカウトの重要な行事であること、このカブラリーを望んでいたスカウト達の教育の場としてどうしても確保しなければならないこと、又、前日の準備日として11月18日が確保されて「本番の19日に(B)施設が確保出来なければ何にもならない」ことなどなど熱っぽく何とか理解してもらわなければこの場を離れることは出来ない旨お願いしたり声を荒げたりして30分、やっと相手は根負けしてキャンセルしてくれたのでした。3人の先生が立ち去った時、私は茫然として立った姿、肩の力が抜け可笑しいことにその場にうづくまって暫くは動けなかった事を記憶しております。

苦しかったと云えばこの事が本当に苦しかったと思います。

第9回茨城県カブラリーは年号が平成に入って初めて行なわれるものであります。前回行われる予定であった第8回カブラリーは平成3年10月20日でありましたがご承知のように開催直前になって急激な悪天候の為中止せざるを得なかつた丈に、第9回カブラリーは何としても開催しなければならない宿命のようなものを感じておりました。その上天候によっては中止するという事の無いよう考えられなければなりません。それには会場内施設が屋内・屋外の2ヶ所同時に使用出来る事が条件となります。

私は11月19日という日を天候に左右されないよう祈りました。そこで水戸地方気象台へ足を運び、那珂町を中心とする地域が例年11月どのような気候に推移し

ているのかを知るべく訪ねてみました。

気象台の人は親切に私の話を聞いて下さり『それなら過去50年間の資料で11月19日の日がどのようなお天気であったか調べてみましょう。直ぐ分かりますから一寸お待ち下さい』ということでした。驚いたことにコンピュータで出された資料は10秒たらずで表示されほとんどが晴若しくは快晴で温度も朝夕は4~5度だが日中は最高気温が15~16度になるということまで判明しました。「風力はどうしますか?」と聞かれて私は苦笑しながら「それは結構です」とお答えした程です。雨天であっても体育館(D)があるからと万全の態勢で臨んだものの、やはり晴天に望みを託し、祈るような気持にありました。

大会テーマとねらい

企画委員会は当初12名、次いで準備委員会は22名で構成されました。テーマは『風と仲よし元気村』とし注釈として「ぼくたちはムシが好きだ。サカナも好きだ。ハナもトリも好きだ。ヒトが好きだ。元気いっぱい自然とあそび、自然に学ぼう。元気村から」と決まり、更にカブラリーのねらいとしては、

1. 参加者全員が楽しく遊べる。
2. 身体全体をつかう。
3. 少し考えて間違いを発見できる。
4. 多くの友だちを作れる。
5. 思い出として心に残る。
6. 必ず各広場と隊長のサインをもらう。
7. スカウト自身の自発活動が發揮できる。
8. 「やくそく」と「さだめ」の実行ができる。

と以上のような中味と致しました。

その日、2100余名の参加者は秋深い笠松運動公園サブ陸上競技場に、清々しい陽光を受けて整然と並びましたことに見事でした。開村式も予定通り進み、スカウトたちはワイドゲームや選択プログラムにチャレンジしましたが、みんな夫々のプログラムに真剣に取り組んでおり、楽しんでいる様子が手に取るように見えました。

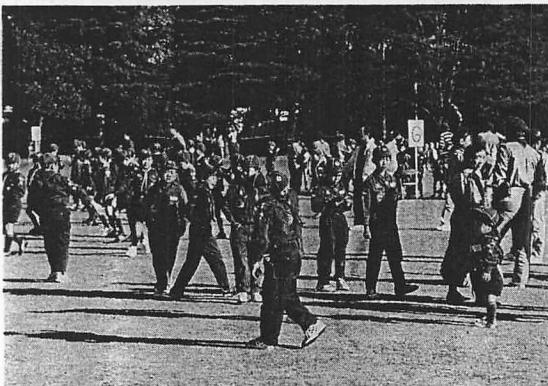
昼食時、「ひまわりバトンリズムスポーツ少年団」の可愛らしい演奏をはさんで午後のプログラムにも更に挑戦。スカウト達は持参の参加カードに承認スタンプを押してもらって大喜び——。

閉村式に吉田運営本部長より成果発表がなされ定刻通り午後3時、全日程終了、解散となりました。

楽しい第9回茨城県カブラリーも無事終了した今、行事部としての反省・評価はしっかりと記録されねば

ならないと考えております。

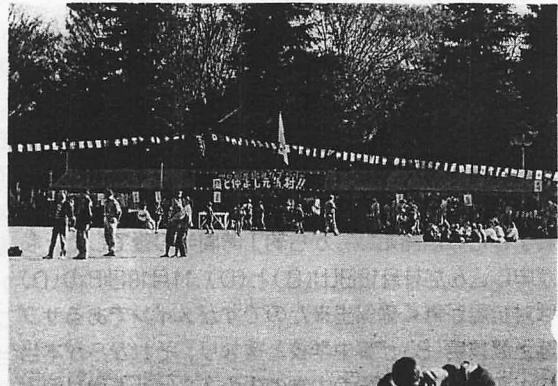
それには限られた人たちの選考と全員の一致協力、無駄の無い配置は勿論ですが、行事部を取り巻く環境整備もあります。そして多くの方々のお世話をいただき楽しいカブラーが出来ましたことに改めて深く



お礼申し上げたいと思います。

ありがとうございました。

「つねに、そなえよ」を銘に。



阪神大震災に奉仕

水戸 8団の茂木さん唯1人
が自発的に阪神大震災に奉仕され、日本連盟からもその行為に対して表彰されました。

茂木さんから奉仕の記事をいただきましたので掲載いたします。

神戸を訪ねて

水戸 8団 茂木明子

昨年3月、震災以来ボランティアとして活動をしていたボーイスカウトのキャンプに参加した。震災から

2ヶ月が経っていたが、街は倒壊家屋とがれきの山でテレビや新聞で知るものよりもその様子は悲惨であった。

ボーイスカウトの活動は芦屋公園に対策本部が設置され、そこを拠点に毎日依頼を受けた活動をするグループと各非難所に泊り込んで活動するグループに分かれていた。私は3日間芦屋公園での活動に参加したがそこでは24時間体制の移動風呂の受付や清掃、日用品や医薬品などの救援物資を配布するための袋詰め、テント生活者のテントの見廻りや引っ越しの手伝い等を行っていた。毎朝5~10人の小グループをつくり自転車で活動場所に移動したが、道路はどこもひびが入っていたり隆起していた。芦屋公園には全国から集まったスカウト・指導者が50人程いて、夜は活動状況を報告したり交流を深めた。

その後1週間は、神戸市灘区の鷹匠中学校の非難所で泊り込みの活動をした。ここには体育館や教室に約300人の被災者がいた。この時期被災者による非難所の自治運営が検討されていたが、ボランティアは入れ代わりながら常時15人程がいて活動していた。活動内

容は、市からの搬入される朝食のパン・夕食のお弁当の配給、昼食の炊きだし、救援物資の管理配布、ゴミの処理、被災した子供たちへの勉強会とレクリエーション等であった。自宅の片付けや仮設住宅の抽選に親が忙しい子供たちと午前中は3学期の学習、午後は焼きいもや長縄、ドッヂボールなどをして遊んだ。何もなかったように無邪気に遊んでいたが家族や友達を亡くした子も多く、地震の恐怖や悲しみから心に傷をもっている子供たちであった。また非難所の生活を明るくするために花の種を蒔いたり、夜ビデオ鑑賞会を開いたりもした。しかし1週間いて、お年寄りの付き添いや使い走りをしたり、各々の被災体験をゆっくり聞く等の小さなことが最も大切なことだと感じた。毎晩、銭湯には長い行列ができて並びながら被災者といろいろな話をしたが、あるおばさんが「こうやって話を聞いてもらえることが何よりも嬉しい。ありがとう」と言っていたことが忘れられない。また被災者の頑張



中央が茂木さん

副リーダートレーナー 新規就任

平成7年度に日本連盟の副リーダートレーナーとして

八木健二さん(日立第1団)

戸舘善敬さん(牛久第4団)

の2名が平成8年1月1日付きで就任されました。

八木さんは6月に、戸舘さんは9月にそれぞれ3泊4日の厳しいトレーニングを履修した後、規定されたレポートを提出して就任いたしました。

ご両名の今後の活躍を期待しております。

っていこうとする姿勢に逆に励まされ、神戸の人々から元気をもらったような気がする。

神戸を訪ねて自分の眼で現実を見たり、被災者や行動を共にした仲間との出会いを通して、豊さの中で生活していくは忘れがちな、物のむなしさやはかなさ人間の勇気や信頼、働く喜びや感謝の心といった大切なことに気付くことができた。今後この体験を胸に、生き方を考えていきたいと思う。現在も子供たちとの文通は続いている。現地に行くことはできないが、神戸の復興を願いつつ、文通は続けていきたいと考えている。そして、いつの日かまた神戸を訪ねたい。



震災風景

7年度指導者の集い

平成7年12月3日 県立青少年会館

平成7年度の「指導者の集い」は今、世界的に大きな問題となっている「環境問題」を取り上げて、専門家をお呼びして開催されました。

基調講演は、神奈川県環境科学センター勤務で、日本連盟環境委員会副委員長の矢島巖先生にお願いしました。

県内各団の指導者が32名参加され、1日熱心に環境問題に取り組みました。

内容は、「スカウティングと環境問題」と題して我々スカウト関係者が是非知っておかなければならない内容が多く、

◎地球環境への影響を抑えたスカウト活動

◎動植物や微生物の撲滅と環境問題

◎これからの環境問題

などについて基調講演があり、その後各隊指導者で分科会を開催して、環境問題を検討しました。

ウッドバッジ研修所

※ビーバースカウト課程 茨城第4期

※シニアースカウト課程 茨城第13期

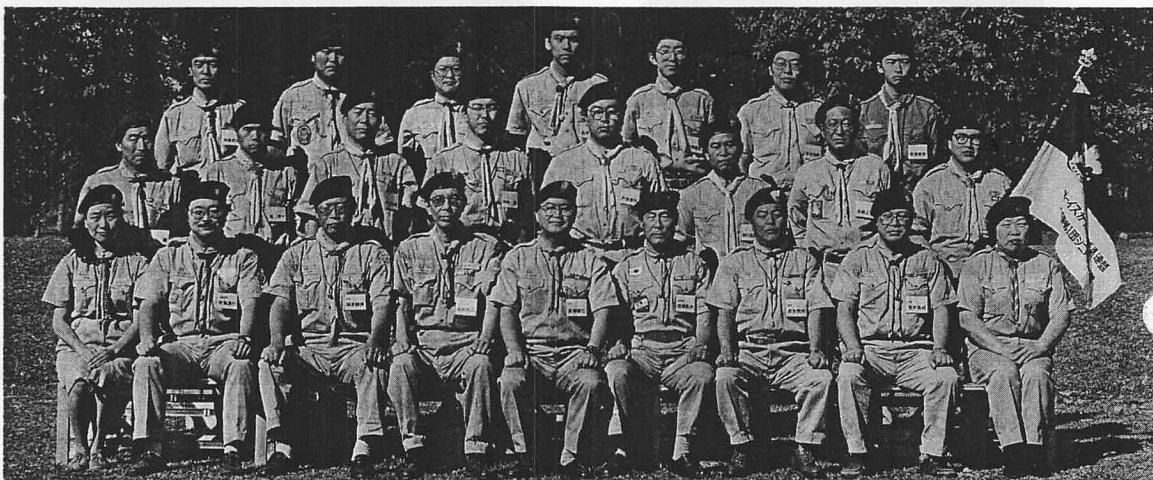
平成7年11月2日～5日

土浦市土浦青少年の家

ビーバースカウト課程茨城第4期は、細谷所長のもと17名が修了されました。

シニアースカウト課程茨城第13期は、吉田俊仁所長のもと15名が修了されました。

飯村コーダーマスターはじめ、第5地区の多くの皆様の献身的な奉仕により、スムーズに業務ができましたことを申し添えます。



編集後記

第18回世界ジャンボリーと第9回茨城県カブラリーの記事と、富士スカウトが2名誕生しましたので、鈴木君から富士スカウトになるまでの抱負を書いていただきました。

阪神大震災に茂木さんが奉仕された記事、指導者の集いで、環境問題を取り上げ矢島先生から、今後のスカウト活動での環境問題について指針をいただきました。